

平成26年度第1回岩手県立前沢明峰支援学校評議員会（記録）

日時：平成26年5月26日（月）14:00～

司会：牧副校長 記録：高橋総務部長

1 開会のことば（牧副校長）

2 校長あいさつ（校長 三浦 祐子）

お忙しい中、お集まりいただき感謝いたします。

本日は、本校の学校経営や地域との関わりについてご意見をお願いしたいと思います。

3 自己紹介

4 学校概況説明

（1）平成26年度教育目標・経営方針（校長）

- ・子ども達の実態に合わせた教育課程、小学部・中学部・高等部と一貫した教育課程を組みたい。来年度に向けて検討中である。
- ・一貫した教育活動の実践に向けた学部間の連携は、学校評価において49%と低い肯定評価だった。これを今年60%に上げたい。何が連携とれていないのかということでアンケートを今年度取り、学部間の連携につなげていきたい。
- ・児童生徒の健康保持・増進及び安全の確保については、ヒヤリハットの事例を書いている。思い込みによるヒヤリハット事例が多いので、これを書くことで大きな事故を防ぎましょうという取り組みである。
- ・指導内容・方法の共有と技術向上については、いじめ防止の委員会を立ち上げて子ども達のために専門性を発揮して取り組んでいきたいと思っている。
- ・学校評価の活用については、校内評価、保護者からの評価、学校評議委員さんからのご助言については、今年度改善できるものは今年度中に反映し、活用を図っていきたい。
- ・ホームページについては、更なる情報発信をしていきたい。
- ・復興教育の推進については、地域の皆様のご協力により避難訓練を実施している。
- ・私達が教育を行う上での原点となるものは、基本姿勢として「笑顔と挨拶」「コミュニケーション」「連携と情報共有」「非難より提案」「虫の目鳥の目」という姿勢で行っていきたい。

（2）各学部の概況

小学部（上山学部主事）

- ・新入生4名、転入生2名を含め、35名でスタートした。
- ・生活の場については、通学生が27名、寄宿舎生1名、学園生が7名ということで、通学生が多い学部である。
- ・日常の学習は、日常生活の指導・生活単元学習・自立活動などの指導をしている。
- ・校外学習、宿泊学習、修学旅行などの行事がある。近所への買い物学習等見守ってほしい。
- ・居住地校交流は、今年度13名希望している。

- ・学校間交流として、9月の中旬に本校2，3年生、前沢小の2年生と行う予定。

中学部（佐藤学部主事）

- ・卒業生20名全員、本校の高等部に入学した。15名の新入生を迎え、47名でスタートした。
- ・寄宿舎に入舎する生徒が増え、他にたばしね学園利用の生徒もいる。それ以外のほとんどの生徒は登下校に福祉サービスの送迎サービスを利用しているのが中学部の特色である。
- ・中学部は、小学部で培ったことを学校以外にも社会でも役立つよう、声をかけていただきたい。

高等部（岩崎学部主事）

- ・在籍数は81名と多く、学校の半数を占めている。
- ・高等部は学校生活仕上の学部であり、3年後には進路先に進まなければならないことを保護者に伝えている。
- ・週の半分の授業が作業学習の時間であり、来週から2週間は、前期就業体験実習が始まる。
- ・より細かく、より生徒の実態に即した指導を実践する目的で、特別学級を2クラス新設した。

（3）校内外支援（梅野支援センター部長）

- ・外部に対する相談支援、関係機関との連絡調整、本校の生徒への支援の3つを経営の柱としている。
- ・昨年度相談件数219件、うち本校分は84件でそれ以外が校外への支援である。
- ・学校と家庭での課題の解決というよりも、放課後のサービスや一時支援など学校以外での外部の方々との解決が課題となっており、昨年度よりも相談の数が増えている。
- ・居住地校交流の状況は、昨年度20件。今年度は若干増え23件。
- ・今年度の「学校へ行こう週間」は、6月24日（火）～27日（金）。

（3）安全指導について（千葉生徒指導主事）

- ・各学部では、交通安全教室、高等部はバスや自転車を使っでの通学指導も行っている。
- ・避難訓練は年4回、火災や地震を想定し各2回ずつ行っている。9月には地域の方と合同で行う予定。
- ・不審者対策訓練、児童生徒の搜索訓練を行っている。
- ・プール指導も行っており、夏休み中に5日間施設関係に開放している。

（4）進路支援について（上山進路指導主事）

- ・生徒数の増加に伴う進路先の確保や卒業後の生活場所と就労場所を同時に支援する課題等、また卒業後のアフターケアの必要性の増加に対し、進路コーディネーターを3名に増員して対応している。
- ・保護者の方の進路手続きも複雑化してきており、また法律の改正に合わせて、説明会議で適宜情報提供に努めている。
- ・高等部3年生になると、やりたい仕事だけではなく、できる仕事を探していくという方向に変わってきている。複数回実習を重ね、一般就労に結び付くよう、本人の意欲を引き出していききたい。

(5) 地域交流について（鈴木地域交流担当）

- ・ 地区によって人数のばらつきがあったり、活動内容も様々である。
- ・ 保護者主体の実施しやすい内容を各地区で計画して取り組んでいる。
- ・ 卒業生や地域の特別支援学級に声をかけるなどして、一緒に活動している地区もある。

5 質問・意見

A氏：福祉の里まつり以外に、あまり地域と交流する機会がないように思われる。もう少し地域との交流に重点を置いてやってもらえるといいと思う。

（進路支援部）：地域の皆さんの目に触れながら、環境整備の面で役に立っているということを実感させたいと思い、あすか通りの花壇の整備や市役所支所付近の公園の環境整備、前沢いきいきスポーツランドのガラス清掃を今年度実施していきたいと計画している。

A氏：地域としても、サンクス前にベンチやテーブルを置いて憩いの場としたいので、ぜひ利用してほしい。

B氏：自分の会社に研修の要請があったが、生ものを扱っていることもあり、その時は衛生上難しいのでお断りしたが、牧場の方では以前実習を受け入れていたことがあった。。真面目な生徒達なので何か協力できることがあれば今後考えていきたい。

C氏：ノー残業デーについては民間でもよくやっている。この日は校長が鍵を閉めるからみんな帰りましょうという考え方をすると実行できると思う。

C氏：支援センター部へは相談にいきなり来てもいいのか？

（支援センター）：発達の遅れなどの相談があったら事前に声をかけてほしい。

C氏：以前「学校行こう週間」に来てもどこに相談すればいいかわからなかった。

（支援センター）：相談を持ちかけやすい方法・手だてについて検討していきたい。

D氏：各学部や分掌で、地域との係わりをもつ手立てをしてほしい。就業体験についても、前沢の商工会などにも相談してみるのもいいのでは。

C氏：卒業生の進路はみごとだ。去年の卒業生の一般就労の方でやめた方はいるか？

（進路支援部）：グループホームにうまく対応できないことが原因で仕事に行かなくなり、4月にやめた方がいる。

C氏：やめたことは学校に連絡が来るようになっているのか？

（進路支援部）：関係機関から連絡が入るようになっているので、すぐ対応はしている。

6 協議・助言

C氏：前沢イオンで、本校の生徒が70歳くらいの方にどなられていた。混んでいるレジに並んでいたが、知り合いを見つけ挨拶に行くために無理に列を横切って行ったのが原因のようだ。どのように声をかけたらいいかわからなかった。

（支援センター部）：混雑しているところで避けながら行かなければならないというマナーも必要だし、周りに障害特性を理解していただくことも必要かと思う。

（校長）：障害があるからといって許されるのではなく、行列の時などは、どのような行動をしたらいいのかを教えていくことが大切なのではと思う。

（中学部長）：近日に中学部3年生が平泉方面へ校外学習に行く。あえて混んでるところを選んだようだ。修学旅行のために混んでいる所を経験するためというねらいがある。

D氏：一般の人にとっては、障害があるかの判別が難しい。体験学習を繰り返し、マナーを理解させていくことが大事なのではないかと思う。混雑している所に連れていくのは大変なことだが、あえてそういう体験をさせていくことが必要であろう。

情報部長：ホームページについて、学校はどのように発信していけばいいかお聞きしたい。

D氏：ホームページは更新を素早くすることが大事。昨年度のものをそのまま更新せず載せている学校もある。情報発信するということは、その都度新しいことをどんどん載せていくことだろう。

(情報部長)：本校は行事があるたびに更新している。個人情報のこともあり、掲載については難しいところもあるが、工夫して作っていきたい。

A氏：ホームページだけでなく、学校の情報を地区の人たちに配るのもいいのではないか。インターネットをやらない人もまだ多いので、そういう方法を使ってみてもいいのではないか。

(校長)：いまだに支援学校は施設だと思っている方が多い。その時に「白梅だより」と一緒に「前沢明峰だより」を配布すると、施設だと思われるのではないかという懸念を持っている。

(高等部長)：子ども達が運動会の案内などを一軒ずつ回って渡す方法もある。

A氏：地域のお祭りがほとんどなくなってきている。前沢地区ふれあいセンターで8月に夕涼み会を行うので参加させてほしい。地域と交流、人との交流を重点にして教育して行ってほしい。

7 謝辞 (三浦校長)

たくさんの具体的なご助言、ありがとうございました。「地域」というキーワードが出て参りました。地域に理解され、地域にかわいがられる学校でありたいと思います。たくさんのご助言をいただきながら、学校運営に努めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

8 閉会のことば (牧副校長)